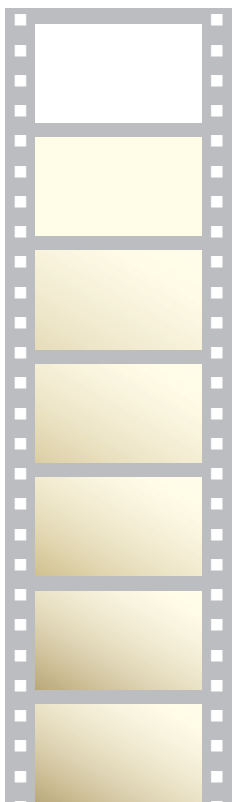


伸^{ノブ}さんのシネマトーク

鈴木 伸夫

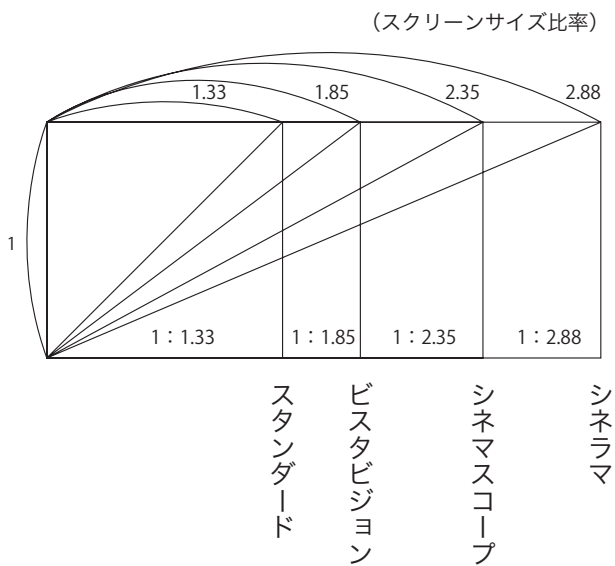


第十八回 「初めての洋画は、兄弟愛がテーマ」

父とは専ら、二番館通いでしたが、ぼくが初めて観た外国映画は、アメリカ映画でした。

この記念すべき作品を観せてくれたのは、父ではなく、出張所内で一番若いKさんでした。Kさんは、ぼくが小学校へ入学した年、新入社員として採用された人で、兄妹キョウタイも多く、一番上の兄でした。Kさんはその映画を観て自分でもう一度観たい、また兄妹にも観せたいと思い、そして、その話を聞いていたぼくも誘ってくれたのです。その映画のタイトルは「山」でした。

「山」(55年製作・エドワード・ドミトリク監督・出演・スペンサー・トレシー、ロバート・ワグナー)。パラマウント映画が、二十世紀FOXのスクリーンサイズ「シネマスコープ」(縦1に対し横2・55、のち横2・35に変化した画面比率)に対抗して作った「ビスタビジョン」(1対1・85の画面比率)。その画面で観せる雪山の風景、ロッククライミングのスリルなど、息を飲むシーンの連続でした。



「パラマウント」とは、「最高峰」という意味ですが、映画のマークの背景の山は、アメリカの最高峰、アラスカのマッキンレー山です。

カラーの大きな画面（当時カラーは、総天然色と言いました）、初めて見る外国人の顔、そして金髪の髪の色、8才か9才のぼくは、字幕は読めませんが、映像で理解できる編集のすばらしさにも感動したのです。

物語は、スイス・アルプスの山頂にインドの旅客機が墜落し、救助隊が組織されますが、その救助隊も冬場の登山は危険なため救助を断念します。しかし、その冬山に、父と息子ほど年齢の差がある兄弟が救助に向かいます。弟（当時26才のロバート・ワグナー）は乗客の金銭を手に入れようと考えていたのです。一方、兄（当時55才のスペンサー・トレーシー）は必死に止めますが、弟は物欲に目がくらみ、雪橋からクレバスに転落して死亡するのです。兄は、ただ一人生存していたインド人の女性（当時マーロン・ブランド夫人だったアンナ・カシュファイ）を救助して生還するのです。

村へ帰ると兄は村人から「弟はなぜ死んだ」と質問されます。兄は弟をかばい「自分が泥棒を計画して弟を誘った、そして転落死した」と話します。しかし、兄弟の日常を知っている村人は誰も信じません。牧師は兄弟愛のために兄がうそをついて

いることを察し、「君はうそをつかない男だ。日曜の礼拝には来るように」と兄に言います。そのひと言でいまままで重い心だった兄の気持ちも軽くなり、映画は終るのです。

ぼくには詳しい会話まで理解できませんでしたが、善人と悪人の区別はわかりました。弟のやったことは悪いこと、兄のやったことはいいこと。

心に残る初めて観た洋画「山」。Kさん、あなたはこの映画をボクに観せることで外国映画の愛と勇気と感動を教えてくださいました。

この映画を観なければ、ぼくの生き方も変わっていたかも知れません。人生のお手本を観せてくれたKさんに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。そして、「兄弟愛は永遠エーエンです」。

(了)
伸

平成23年4月